

審査意見への対応を記載した書類（3月）添付資料 目次

1.	基幹情報学専攻博士後期課程 追加科目 シラバス	P. 1
	・ 基幹情報学特別研究 5	
	・ 基幹情報学特別研究 6	
	・ 基幹情報学特別研究 7	
	・ 基幹情報学特別研究 8	
2.	学際情報学専攻博士後期課程 追加科目 シラバス	P. 10
	・ 学際情報学特別研究 5	
	・ 学際情報学特別研究 6	
	・ 学際情報学特別研究 7	
	・ 学際情報学特別研究 8	

授業名称		担当教員氏名	
基幹情報学特別研究 5		阿多 信吾、宇野 裕之、大野 修一、黄瀬 浩一、戸出 英樹、中野 賢、能島 裕介、藤本 典幸、本多 克宏、森 直樹、吉岡 理文	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態
2	2 年前期	必修	実験・実習

授業概要
「基幹情報学特別研究 4」に引き続き、情報学および関連分野に関する幅広い知識を基盤とし、高度な専門的知識、技能、創造的思考力を身につけるとともに、研究の実践過程における経験を通じ、自ら研究を立案し遂行する能力を身につける。また、研究の実践過程における経験を通じて高い使命感、責任感、倫理観を涵養することを目的とする。具体的には、指導教員および副指導教員の指導の下、各院生の専門領域における研究を実施し、研究発表や学術論文の投稿など研究成果の発信を行う。
到達目標
・研究遂行上必要な情報を収集・整理できる。 ・研究発表等を通じて、研究内容を論理的に表現できる。また、論理的な議論ができる。 ・研究者としての責任・倫理観を自覚した上で、専門分野における課題設定・課題解決に向け自律的に研究活動ができる。 ・研究計画に基づき研究を具体的に進めることができる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	オリエンテーション	担当教員の指示に従うこと。
第2回	研究指導（研究計画書の報告）	
第3回	研究指導（研究結果の検討、研究論文の執筆・校正、研究への助言） ・担当教員が研究テーマおよび院生の進捗状況に応じて指導を行う。	
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回	プレゼンテーション(所属研究室外で研究紹介および進捗方法について)	
第10回	研究指導(研究論文の主要な章の発表と質疑応答)	
第11回	研究指導(研究論文のその他の諸章の発表と質疑応答)	
第12回	研究指導（研究論文への指導教員の助言と補	

第13回	正)	
第14回	研究指導（研究論文提出準備、研究発表準備）	
第15回	研究発表	

成績評価方法
指導教員が、学習目標の達成度、研究の内容、日頃の研究進捗状況および研究成果により判断する。
履修上の注意
なし
教科書
指導教員より個別に指示する。
参考文献
指導教員より個別に指示する。

授業名称		担当教員氏名	
基幹情報学特別研究 6		阿多 信吾、宇野 裕之、大野 修一、黄瀬 浩一、戸出 英樹、中野 賢、能島 裕介、藤本 典幸、本多 克宏、森 直樹、吉岡 理文	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態
2	2 年後期	必修	実験・実習

授業概要
「基幹情報学特別研究 5」に引き続き、情報学および関連分野に関する幅広い知識を基盤とし、高度な専門的知識、技能、創造的思考力を身につけるとともに、研究の実践過程における経験を通じ、自ら研究を立案し遂行する能力を身につける。また、研究の実践過程における経験を通じて高い使命感、責任感、倫理観を涵養することを目的とする。具体的には、指導教員および副指導教員の指導の下、各院生の専門領域における研究を実施し、研究発表や学術論文の投稿など研究成果の発信を行う。
到達目標
・研究遂行上必要な情報を収集・整理できる。 ・研究発表等を通じて、研究内容を論理的に表現できる。また、論理的な議論ができる。 ・研究者としての責任・倫理観を自覚した上で、専門分野における課題設定・課題解決に向け自律的に研究活動ができる。 ・研究計画に基づき研究を具体的に進めることができる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	オリエンテーション	担当教員の指示に従うこと。
第2回	研究指導（研究計画書の報告）	
第3回	研究指導（研究結果の検討、研究論文の執筆・校正、研究への助言） ・担当教員が研究テーマおよび院生の進捗状況に応じて指導を行う。	
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回	プレゼンテーション(所属研究室外で研究紹介および進捗方法について)	
第10回	研究指導(研究論文の主要な章の発表と質疑応答)	
第11回	研究指導(研究論文のその他の諸章の発表と質疑応答)	
第12回	研究指導（研究論文への指導教員の助言と補	

第13回	正)	
第14回	研究指導（研究論文提出準備、研究発表準備）	
第15回	研究発表	

成績評価方法
指導教員が、学習目標の達成度、研究の内容、日頃の研究進捗状況および研究成果により判断する。
履修上の注意
なし
教科書
指導教員より個別に指示する。
参考文献
指導教員より個別に指示する。

授業名称		担当教員氏名	
基幹情報学特別研究 7		阿多 信吾、宇野 裕之、大野 修一、黄瀬 浩一、戸出 英樹、中野 賢、能島 裕介、藤本 典幸、本多 克宏、森 直樹、吉岡 理文	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態
2	3 年前期	必修	実験・実習

授業概要
「基幹情報学特別研究 6」に引き続き、情報学および関連分野に関する幅広い知識を基盤とし、高度な専門的知識、技能、創造的思考力を身につけるとともに、研究の実践過程における経験を通じ、自ら研究を立案し遂行する能力を身につける。また、研究の実践過程における経験を通じて高い使命感、責任感、倫理観を涵養することを目的とする。具体的には、指導教員および副指導教員の指導の下、各院生の専門領域における研究を実施し、研究発表や学術論文の投稿など研究成果の発信を行うとともに、学位論文を執筆する。
到達目標
・研究遂行上必要な情報を収集・整理できる。 ・研究発表等を通じて、研究内容を論理的に表現できる。また、論理的な議論ができる。 ・研究者としての責任・倫理観を自覚した上で、専門分野における課題設定・課題解決に向け自律的に研究活動ができる。 ・研究計画に基づき研究を具体的に進めることができる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	オリエンテーション	担当教員の指示に従うこと。
第2回	研究指導（研究計画書の報告）	
第3回	研究指導（研究結果の検討、研究論文の執筆・校正、研究への助言） ・担当教員が研究テーマおよび院生の進捗状況に応じて指導を行う。	
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回	プレゼンテーション(所属研究室外で研究紹介および進捗方法について)	
第10回	研究指導(研究論文の主要な章の発表と質疑応答)	
第11回	研究指導(研究論文のその他の諸章の発表と質疑応答)	
第12回	研究指導（研究論文への指導教員の助言と補	

第13回	正)	
第14回	研究指導（学位論文執筆、事前審査発表準備）	
第15回	事前審査発表	

成績評価方法	
指導教員が、学習目標の達成度、研究の内容、日頃の研究進捗状況および研究成果により判断する。	
履修上の注意	
なし	
教科書	
指導教員より個別に指示する。	
参考文献	
指導教員より個別に指示する。	

授業名称		担当教員氏名	
基幹情報学特別研究 8		阿多 信吾、宇野 裕之、大野 修一、黄瀬 浩一、戸出 英樹、中野 賢、能島 裕介、藤本 典幸、本多 克宏、森 直樹、吉岡 理文	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態
2	3 年後期	必修	実験・実習

授業概要
「基幹情報学特別研究 7」に引き続き、情報学および関連分野に関する幅広い知識を基盤とし、高度な専門的知識、技能、創造的思考力を身につけるとともに、研究の実践過程における経験を通じ、自ら研究を立案し遂行する能力を身につける。また、研究の実践過程における経験を通じて高い使命感、責任感、倫理観を涵養することを目的とする。具体的には、指導教員および副指導教員の指導の下、各院生の専門領域における研究を実施し、学会における研究発表や学術論文の投稿など研究成果の発信を行うとともに、学位論文を執筆し完成させる。
到達目標
・研究計画書に基づき研究を具体的に進めることができる。 ・研究遂行上必要な情報を収集・整理できる。 ・研究発表等を通じて、研究内容を論理的に表現できる。また、論理的な議論ができる。 ・研究者としての責任・倫理観を自覚した上で、専門分野における課題設定・課題解決に向け自律的に研究活動ができる。 ・研究成果を博士論文としてまとめ、博士論文公聴会においてその成果を発表することができる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	オリエンテーション	指導教員の指示に従うこと。
第2回	研究指導（研究計画書の報告）	
第3回	研究指導（研究結果の検討、研究論文の執筆・校正、研究への助言） ・担当教員が研究テーマおよび院生の進捗状況に応じて指導を行う。	
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回	プレゼンテーション（所属研究室外で研究紹介および進捗方法について）	
第10回	研究指導（学位論文の主要な章の発表と質疑応答）	
第11回	研究指導（学位論文のその他の諸章の発表と質疑応答）	
第12回	研究指導（学位論文への指導教員の助言と補	

第13回	正)	
第14回	研究指導（学位論文提出準備、公聴会発表準備）	
第15回	公聴会発表	

成績評価方法
指導教員が、学習目標の達成度、研究の内容、日頃の研究進捗状況および研究成果により判断する。
履修上の注意
なし
教科書
指導教員より個別に指示する。
参考文献
指導教員より個別に指示する。

授業名称		担当教員氏名	
学際情報学特別研究 5		安倍 広多、石橋 勇人、泉 正夫、岩村 幸治、太田 正哉、菅野 正嗣、瀬田 和久、中島 智晴、真嶋 由貴恵、宮本 貴朗、村上 晴美、森田 裕之、渡邊 真治	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態
2	2 年前期	必修	実験・実習

授業概要
本特別研究科目では、「学際情報学特別研究 4」に引き続き、知識科学、情報工学分野を基盤とした関連分野に関する研究を自ら立案し、遂行する能力を身につける。また、研究の実践過程における経験を通じて高い使命感、責任感、倫理観を涵養することを目的とする。具体的には、指導教員および副指導教員の指導の下、各院生の専門領域における研究を実施し、学会における研究発表や学術論文の投稿など研究成果の発信を行う。
到達目標
・研究者としての責任・倫理観を自覚した上で、専門分野における課題設定・課題解決に向け自律的に研究活動ができる。 ・研究内容を論理的に説明でき、論文としてまとめることができる。 ・研究発表において、他人からの質問に対して適切な回答ができる。 ・学会・研究会などにおいて、他人の発表に対して的確な質問ができる。 ・研究計画書に基づき、研究を具体的に進めることができる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	オリエンテーション	担当教員の指示に従うこと。 担当教員の指導を随時受けながら、学位論文作成に向けた研究を実施する。 ・研究室内において論文紹介や自身の研究の進捗内容を報告する。 ・自分の研究論文テーマや進捗内容に関するプレゼンテーションを学会・研究会などで発表する。 ・自身の研究室で他研究室の学生のプレゼンテーションを聴講し、議論する。 ・研究成果を論文としてまとめ、学会においてその成果を発表する。
第2回	研究指導（研究計画書の報告）	
第3回	研究指導（研究結果の検討、研究論文の執筆・校正、研究への助言） ・担当教員が研究テーマおよび院生の進捗状況に応じて指導を行う。	
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回	プレゼンテーション(所属研究室外で研究紹介および進捗方法について)	
第10回	研究指導(研究論文の主要な章の発表と質疑応答)	
第11回	研究指導(研究論文のその他の諸章の発表と質疑応答)	

第12回	研究指導（研究論文への指導教員の助言と補正）	
第13回		
第14回	研究指導（研究論文執筆、学会発表準備）	
第15回	研究発表	

成績評価方法
指導教員が、研究の内容、日頃の研究進捗状況、研究成果、研究指導状況により判断する。
履修上の注意
特になし。
教科書
教員より適宜個別に指示する。
参考文献
教員より適宜個別に指示する。

授業名称		担当教員氏名	
学際情報学特別研究 6		安倍 広多、石橋 勇人、泉 正夫、岩村 幸治、太田 正哉、菅野 正嗣、瀬田 和久、中島 智晴、真嶋 由貴恵、宮本 貴朗、村上 晴美、森田 裕之、渡邊 真治	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態
2	2 年後期	必修	実験・実習

授業概要
本特別研究科目では、「学際情報学特別研究 5」に引き続き、知識科学、情報工学分野を基盤とした関連分野に関する研究を自ら立案し、遂行する能力を身につける。また、研究の実践過程における経験を通じて高い使命感、責任感、倫理観を涵養することを目的とする。具体的には、指導教員および副指導教員の指導の下、各院生の専門領域における研究を実施し、学会における研究発表や学術論文の投稿など研究成果の発信を行う。
到達目標
・研究者としての責任・倫理観を自覚した上で、専門分野における課題設定・課題解決に向け自律的に研究活動ができる。 ・研究内容を論理的に説明でき、論文としてまとめることができる。 ・研究発表において、他人からの質問に対して適切な回答ができる。 ・学会・研究会などにおいて、他人の発表に対して的確な質問ができる。 ・研究計画書に基づき、研究を具体的に進めることができる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	オリエンテーション	担当教員の指示に従うこと。 担当教員の指導を随時受けながら、学位論文作成に向けた研究を実施する。 ・研究室内において論文紹介や自身の研究の進捗内容を報告する。 ・自分の研究論文テーマや進捗内容に関するプレゼンテーションを学会・研究会などで発表する。 ・自身の研究室で他研究室の学生のプレゼンテーションを聴講し、議論する。 ・研究成果を論文としてまとめ、学会においてその成果を発表する。
第2回	研究指導（研究計画書の報告）	
第3回	研究指導（研究結果の検討、研究論文の執筆・校正、研究への助言） ・担当教員が研究テーマおよび院生の進捗状況に応じて指導を行う。	
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回	プレゼンテーション(所属研究室外で研究紹介および進捗方法について)	
第10回	研究指導(研究論文の主要な章の発表と質疑応答)	
第11回	研究指導(研究論文のその他の諸章の発表と質疑応答)	

第12回	研究指導（研究論文への指導教員の助言と補正）	
第13回		
第14回	研究指導（研究論文執筆、学会発表準備）	
第15回	研究発表	

成績評価方法
指導教員が、研究の内容、日頃の研究進捗状況、研究成果、研究指導状況により判断する。
履修上の注意
特になし。
教科書
教員より適宜個別に指示する。
参考文献
教員より適宜個別に指示する。

授業名称		担当教員氏名	
学際情報学特別研究 7		安倍 広多、石橋 勇人、泉 正夫、岩村 幸治、太田 正哉、菅野 正嗣、瀬田 和久、中島 智晴、真嶋 由貴恵、宮本 貴朗、村上 晴美、森田 裕之、渡邊 真治	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態
2	3 年前期	必修	実験・実習

授業概要
本特別研究科目では、「学際情報学特別研究 6」に引き続き、知識科学、情報工学分野を基盤とした関連分野に関する研究を自ら立案し、遂行する能力を身につける。また、研究の実践過程における経験を通じて高い使命感、責任感、倫理観を涵養することを目的とする。具体的には、指導教員および副指導教員の指導の下、各院生の専門領域における研究を実施し、学会における研究発表や学術論文の投稿など研究成果の発信を行うとともに、学位論文を執筆する。
到達目標
・研究者としての責任・倫理観を自覚した上で、専門分野における課題設定・課題解決に向け自律的に研究活動ができる。 ・研究内容を論理的に説明でき、論文としてまとめることができる。 ・研究発表において、他人からの質問に対して適切な回答ができる。 ・学会・研究会などにおいて、他人の発表に対して的確な質問ができる。 ・研究計画書に基づき、研究を具体的に進めることができる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	オリエンテーション	担当教員の指示に従うこと。 担当教員の指導を随時受けながら、学位論文作成に向けた研究を実施する。 ・研究室内において論文紹介や自身の研究の進捗内容を報告する。 ・自分の研究論文テーマや進捗内容に関するプレゼンテーションを学会・研究会などで発表する。 ・自身の研究室で他研究室の学生のプレゼンテーションを聴講し、議論する。 ・研究成果を論文としてまとめ、学会においてその成果を発表する。
第2回	研究指導（研究計画書の報告）	
第3回	研究指導（研究結果の検討、研究論文の執筆・校正、研究への助言） ・担当教員が研究テーマおよび院生の進捗状況に応じて指導を行う。	
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回	プレゼンテーション(所属研究室外で研究紹介および進捗方法について)	
第10回	研究指導(研究論文の主要な章の発表と質疑応答)	
第11回	研究指導(研究論文のその他の諸章の発表と質疑応答)	

第12回	研究指導（研究論文への指導教員の助言と補正）	
第13回		
第14回	研究指導（学位論文執筆、事前審査発表準備）	
第15回	事前審査発表	

成績評価方法
指導教員が、研究の内容、日頃の研究進捗状況、研究成果、研究指導状況により判断する。
履修上の注意
特になし。
教科書
教員より適宜個別に指示する。
参考文献
教員より適宜個別に指示する。

授業名称		担当教員氏名	
学際情報学特別研究 8		安倍 広多、石橋 勇人、泉 正夫、岩村 幸治、太田 正哉、菅野 正嗣、瀬田 和久、中島 智晴、真嶋 由貴恵、宮本 貴朗、村上 晴美、森田 裕之、渡邊 真治	
単位数	配当年次	必修・選択・自由の別	授業形態
2	3 年後期	必修	実験・実習

授業概要
本特別研究科目では、「学際情報学特別研究 7」に引き続き、知識科学、情報工学分野を基盤とした関連分野に関する研究を自ら立案し、遂行する能力を身につける。また、研究の実践過程における経験を通じて高い使命感、責任感、倫理観を涵養することを目的とする。具体的には、指導教員および副指導教員の指導の下、各院生の専門領域における研究を実施し、学会における研究発表や学術論文の投稿など研究成果の発信を行うとともに、学位論文を執筆し完成させる。
到達目標
・研究者としての責任・倫理観を自覚した上で、専門分野における課題設定・課題解決に向け自律的に研究活動ができる。 ・研究内容を論理的に説明でき、論文としてまとめることができる。 ・研究発表において、他人からの質問に対して適切な回答ができる。 ・学会・研究会などにおいて、他人の発表に対して的確な質問ができる。 ・研究成果を博士論文としてまとめ、博士論文公聴会においてその成果を発表することができる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	オリエンテーション	担当教員の指示に従うこと。 担当教員の指導を随時受けながら、学位論文作成に向けた研究を実施する。 ・研究室内において論文紹介や自身の学位論文の進捗内容を報告する。 ・自分の学位論文テーマや進捗内容に関するプレゼンテーションを学会・研究会などで発表する。 ・自身の研究室で他研究室の学生のプレゼンテーションを聴講し、議論する。 ・研究成果を学位論文としてまとめ、公聴会においてその成果を発表する。
第2回	研究指導（研究計画書の報告）	
第3回	研究指導（研究結果の検討、研究論文の執筆・校正、研究への助言） ・担当教員が研究テーマおよび院生の進捗状況に応じて指導を行う。	
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回	プレゼンテーション(所属研究室外で研究紹介および進捗方法について)	
第10回	研究指導(学位論文の主要な章の発表と質疑応答)	
第11回	研究指導(学位論文のその他の諸章の発表と質疑応答)	

第12回	研究指導（学位論文への指導教員の助言と補正）	
第13回		
第14回	研究指導(学位論文提出準備、公聴会発表準備)	
第15回	公聴会発表	

成績評価方法
指導教員が、研究の内容、日頃の研究進捗状況、研究成果、研究指導状況により判断する。
履修上の注意
特になし。
教科書
教員より適宜個別に指示する。
参考文献
教員より適宜個別に指示する。